レッスン：20“M”

テーマ：多重性に関する質問と答え/エクササイズ

MAC20/DOC.KE4

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に包まれています。

質問と答え

質問：私達は常にエレメンタルを創造していることがわかりました。私達はまた意図的にエレメンタルを創造することもできるのでしょうか？

K：そうです、私達はどの瞬間にもエレメンタル創造していますが、エレメンタルを創造するのは私達の二元性、私達が問いと答えであることの結果です。そしてまた、この二元性が私達の思索、黙想を創造するのです。もし私達が問いと答えでないとしたら、私達は思索、黙想を全く現わさないことでしょう。私達は二元性の諸世界に生きていますが、二元性を現わすことができるためには、私達の特質の中に二元性が含まれている必要があります。アウタルキーの状態においてこの二元性が何らかの目的に役立っているか否かは別問題ですが、二元性は実存の諸世界においては特定の目的に奉仕しています。大きな目的に役立っています。

質問：私には取り除いてしまいたい想念があります；私はエレメンタルを創造できますか？

K：もし取り除きたい想念があるなら、それらの想念にフォーカスするのを止めなさい；そうすることが、それらのエレメンタルからエネルギーを奪い去る唯一の方法です。別のところにフォーカスすることによって、別のエレメンタルを創造するようにしなさい。他にフォーカスし、新たなエレメンタルにエネルギーを付与するのです。もしあなたが除去したい想念のエネルギーを奪い去ろうと試みると、それらのエレメンタルに一層エネルギーを与える結果となります。否定的状況についてのプラス思考というものはありません。そのような状況に対処するには、別のところにフォーカスすることです。それらのエレメンタルについて考えるのを止め、興味ある別のことに自分自身の注意を向けるのです。これが心の平安と落ち着きを得るための唯一の方法です。

質問：例をあげて質問したいと思います。

有名人がいて、もしあなたがその人について考えると、その人にそっくりのエレメンタルが創造されます。しかし、もし一人あるいはそれ以上の人々がその人に関して悪いイメージを創造すると、悪いエレメンタルが創造されるのですか？

K：その場合、ある人々は悪いエレメンタルを創造し、ある人々は良いエレメンタルを創造します。悪い、または良いエレメンタルとは、その特定の人の現れについて私達が理解する仕方を意味します。その特定の人の本当の現れは、気づきのレベルとしての私達の理解のフィルターによって変わることはありません。その人の現れについて私はこのように理解します、とそれだけです。しかし、もし私が意図的にその人を害するようなエレメンタルを築く場合は、別問題です。その場合、その人への影響力はその人、およびそのような特定のエレメンタルを創造しつつある私自身の気づきのレベルによります。

質問：この例は、別の波動に存在するある人の観点から与えられたのですが、しかし実際、この世界の波動の中にいる間に私が彼について考える仕方と違いはありません。なぜなら、私は自分自身の気づきのフィルターから彼について考えるわけですから。ここで起きていることを簡単に他の波動においても適用することができますか？

K：できます。他の波動では、彼らの一人一人はここにあって、一人が他の人の中にあります。あなたの世界は他の全ての人々のあらゆる世界の中にあるのです。

page2

質問：それでは、この瞬間にも私は他の全てのバイブレーションをも有していて、ただ私はこの特定の波動によってより拘束されているだけなのでしょうか？

K：この次元にいる間は、あなたは自分が創造したものを意識的に生きていません。それが唯一の違いです。しかし、肉体の死という現象によって、私達は別の波動の中で自分にとって最も適切な年齢、もっとも楽しめる年齢で存在します。しかし、思考・行動の仕方としての私達の気づきのレベルは、それまでに私達が到達したレベルにあります。粗雑な物質界に生きている間、私達はあらゆる心配と恐れを抱いています。しかし、私達が肉体を去って別の波動へ移行すると、私達は自分の気づきのレベルに従って、自分にとってベストなものを創造するのです；しかし、あなたにとってベストなものも、他の人にとってはベストではないかもしれません。

質問：死ぬ瞬間に私達は自分自身の世界を創造する、というのは本当ですか？

K：その瞬間にではありません。*通常、平均的レベルの気づきにある人は、眠りの状態に入ります。眠りの長さはそのパーソナリティーの状態によります。彼らが別の波動の中で目覚める時、それはあたかも生前においていつも朝ベッドの中で起き上がるのと同じようです。そして、彼らは日常の生活をスタートするのです。*

質問：それでは、全ては彼らが創造するのですね。そして、この世界にあるような真のコンタクトというものはないのですね。

K：真のコンタクト？これは真のコンタクトでしょうか？いいえ、これは影であって、リアリティーではありません。彼ら自身の似姿としてそれらが表現される手段を私達が創造したにせよ、それはもっとリアルです。たとえ永遠のアトムがなくても、彼らはこの波動（＊物質界）の中で現われている全ての人間よりもリアルです。私達が上昇するに伴い、リアリティーはより近づきやすいものとなります。

理解しましょう、私達はリアリティーの世界に生きているのではなく、イリュージョンの世界、対立する二極の世界、理解の世界、複数の次元の世界に生きているのであり、ステート(State)の世界に生きているのではありません。

質問：それでは、なぜ私達は死ぬことを恐れるのでしょうか？

K：未知だからです。人間は未知のものを恐れるのです。

質問：この次元では、私達はある人と話しをして、その人が言うことや考えていることを体験します；後にその場面について回想する時には、記憶となっているものを引きだしてきます。さて、私達が考え、創造するそれらのパーソナリティーは、他の次元では私たちが彼等に関する記憶として思い出すものよりもっと真に迫っている、とあなたは言っています。彼らはいかにしてそうするのですか？

K：どのようにして、ということですか？なぜなら、それらは中心となるパーソナリティー、永遠のアトムと共にあるパーソナリティーとつながっているので、そうなるのです。そして、それらが置かれている出来事に従って、それらはあたかも彼ら自身であるかのようにそれらの特定の現れを表現するのです。実際これは、あなたが体験しない限り理解するのはとても困難です。どれぐらい多くの同一体がその一人である特定のパーソナリティーのレベル、似姿を完全に表現しながらお互いに独立し、存在しているのか想像できますか？

質問：でも、それは実際に生じているのですよね。では、もし私がある人についてある仕方で考え、他の千人の人々がそれとは違ったように考える場合、どうなるのでしょうか？それはそのパーソナリティーには影響ないのですね。

K：そうです、影響ありません。

質問：それなら、特定の人について全ての人がそれぞれ違った考えを抱く場合、その意味は何でしょうか？

K：それは同じことではありません。それは今ここで私達が言っていることではありません。あなたはある考えを抱いていて、あるパーソナリティーについてあなたはその考えのように理解しています。しかし、それは私達が今晩話してきたことではありません；パーソナリティーについての私達の理解に関することを話しているのではありません。様々な創造の独立性、そして創造されたものが特定のパーソナリティーの似姿を完全に表現しながら、それぞれいかにして独立して働くか、ということについて話しているのです。それはまた、それぞれの状況に応じたそれらの現れの存在に関することです。あたかも同一体の代わりに中心となるパーソナリティーがあるかのごとくに。私達が望むようなその現れの“表現”ではなく。このことがわかりますか？

質問：同一体であるエレメンタルは発展することができますか？

K：エレメンタルは私達自身と少しの違いもありません。全てのエレメンタルはそれが本人の創造によるものであれ、他人の創造によるものであれ、そのパーソナリティーの思考・行動の仕方に応じて現われます。それら“同一体”は、中心となるパーソナリティーを通じて私達が表現された仕方に応じ、それら全てのエレメンタルを通じて表現されます。これが多重性の素晴らしさです；誰かが、私達の現れが表現される手段を創造していますが、しかし私達は自分自身を表現します。言い換えれば、私達を創造する全ての人にとって、私達は中心点であり、中心なのです。もう一つのポイントがあります；私達はそれら全ての創造について知っているでしょうか？いいえ、知りません。永遠のパーソナリティーとしての中心にあるパーソナリティーは知っているでしょうか？答えはイエスです。なぜだかわかりますか？その理由は、永遠のパーソナリティーは魂のセルフ・エピグノシスでもあり、同化という能力を有しており、全てと一体だからです。

質問：実存の諸世界においては、私達はリアル（本当）ではないのですか？

K：実存の諸世界はどこにありますか？これら全てのことはどこで生じているのですか？それらはアウタルキーの中で生じているのです。私達にとってそれはリアルではありませんが、アウタルキーの中にある時、それはリアルなのです。

質問：私達は自分がリアルだと言いますが、あなたは私達はリアルではないと言います。

K：そうです、私達はリアルではありません。あなたはあなた自身の観点からあなたがリアリティーだと考える仕方で、リアリティーとはこういうものだとあなたが考えるポイントから、あなたは全てをリアルだと見なすのですが、それは違います。リアリティーはこの観察点からではなく、実存の諸世界より上にあるポイントからのものです。なぜなら、全てはアウタルキーにあり、その状態から見るとそれはリアルなのです。

質問：ある男性が数年前に肉体を去り、彼と親しかった全ての人々のエレメンタルを携えて別の次元に入りました。後に別の人が肉体を去り、新たな経験が加わった同じ複数の人々のエレメンタルを携えて別の次元に入りました。二番目の人のエレメンタルは異なっているわけですが、それでも最初の人が携えていったエレメンタルはその時のレベルの気づきに留まっているのでしょうか？

K：それは完全にこれらの次元でエレメンタルを創造したパーソナリティーの気づきのレベルによります。さて、成長・進化は全ての同一体にも伝えられるという傾向がありますが、それらのエレメンタルを創造した人々、その人と関係ある人々が自分たちの創造を通じて成長、進化が表現されるのを許すか否か、は全く別問題です。前にも述べたように、私達は全ての人間を自分の気づきのレベルに従って理解するのです。

私達は他の人間の成長、進化をどのようにして理解するのでしょうか？私達がそれらを理解するか否かは、私達の理解のレベルとフィルターによります。前にこのレッスンの中で、私達は同じ人間について異なった多数の同一体を創造すると述べました。異なった様々な時々のその人を知っているからです。しかし、それら全てのエレメンタルが一緒になって一つになることはない、と述べました。なぜだかわかりますか？なぜなら、その特定のパーソナリティーに関する継続的な知識がないからです；進化の継続がなく、その成長・進化の結果の表現がありません。例えば、そのパーソナリティーをある期間にわたって知っていたとします、例えば２年間、３年間、５年間など。そして再びその人と再会すると、私達はその人について前とは異なった印象、見方を抱きます。そのようにして別のエレメンタルを創造します。勿論、以前のエレメンタルもまだ存在します。私達がどの時期に注意を向けるかによって、その時期の似姿であるエレメンタルを見出すのです。ただそれにフォーカスするだけでそれは活性化しますが、他のエレメンタルは永遠の現在と呼ばれる状態において静止したまま留まっています。もし誰か、あるいは人々がそれらのエレメンタルにフォーカスすると、それらのエレメンタルはエネルギーを付与され活性化し、あなた方が理解している時間・空間の意味の中に入ってきます。

page4

質問：他の諸世界についてはどうなのですか？私達は自分のキリスト意識を通じて神に近づくのですか？

K：神はあらゆるところにあり、あらゆるものは神の中にあるのです。もし私達が自分の気づきのレベルを変えることがないなら、私達がこれらの次元にいようと他の次元にいようと同じです。私達は進化・成長を通じて内側のインナーセルフにより近づいていきますが、それは私達が他の次元に入るともっとインナーセルフに近づくという意味ではありません。違いはありません。確かに、これらの次元にいるよりも別の次元にいる方が素質的可能性のサイクルを表現する上での制約は少なくなります。しかし、しかしですよ、鍵、キーは今いるこれらの次元から回さねばならないことを認識する必要があります。他の次元においては、私達は同じレベルの気づきであってもより多くの素質的可能性を有する、ということをこの次元から認識し始める必要があります。

質問：それでは、私達の諸体が完全に成長していなくても、それらの波動のルールと法則に従って生きることは可能ですか？

K：あなたはイリュージョンから解放されるでしょうが、完全に解放されるわけではありません。それはあなたがどの波動に入るかによります。なぜなら、アークエンジェルによって築かれた49の様々なサイコノエティカルなバイブレーションがあるからです。私達はそれらのサイコノエティカルな諸世界のリアリティーを生きねばならないのですが、それは私達の気づきのレベルによります；私達がこの諸世界のマスターとなった時初めて、49のサイコノエティカルなバイブレーションのリアリティーを認識することができるのです。

質問：アークエンジェルによって築かれた49の次元があると言いましたが、それは既にそれらの場所があることを意味します。しかし、次元は私達が創造するものであるとも言いました。あなたはこれをどのように解決しますか？

K：しかし、それらは次元の諸世界ではなく、波動の諸世界です。あなたは私の話すことをもっと注意して聞く必要があります。波動と次元の間には大きな違いがあります；次元は気づきが創造するものですが、波動はアークエンジェルによる創造です。私達はこのことを心に留めておく必要があります。マインドによって様々なサイコノエティカルな世界が形成されていますが、しかし様々な波動の諸世界を分類して様々な意味を表現するのは、アークエンジェルによる創造ではありません。現れの制限がそれを創造しているのであり、私達には三次元、四次元、そして五次元があります。これはアークエンジェルの創造の結果ではありません。マインドの様々な異なった波動は聖霊的現れとキリスト・ロゴスの結果です。スーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質としてのマインドがありますが、それら全ての形成は、様々な異なったレベルの気づきを表現する手段を私達に提供するためです。ですから、次元および波動について話す時には注意深くある必要があります。

質問：あなたが特定のポイントで振動している時、マインドによって与えられた可能性としての特定の次元に入るのですか？

K：私達が波動と言う時、つまり誰かの現れが特定のレベルの波動を帯びていると言う時、それは実際どういう意味でしょうか？それはサイコノエティカル界の特定の層あるいは亜層に属する特定のレベルの表現を意味します。

質問：肉体を去る時、私達はそのことを認識できないので、自分は相変わらず同じ人々やその他と一緒に同じ場所にいると考えてしまう、とあなたは述べたと思います。進化・成長するためには自分がいるステージに気づくようになる必要がある、と考えてよいのでしょうか？

K：そうです、そのために私達は今のこれらの次元からスタートし、より高いレベルの気づきと理解へ到達することを目指す必要があるのです。死の現象の後、自分が別の次元にいることに気がついた時には、あなたは非常に容易にそれらのリアリティーに“触れる”ことができるでしょう。勿論、これには不可視のヘルパー達の助けと導きがあります。彼らはあなたを連れ、案内し、あなたが変化を認識するように助けてくれます。あなたが今のこれらの次元からスタートしない限り、それは不可能です。ですから、これらの次元からスタートする人には多くの恩恵があるのです。これら全ては啓発へと導く経験なのです。なぜ？経験によって私達は何を得るのでしょうか？答えは個別性(individuality)を得ることです。しかし、何のために？実際、なぜ個別性が必要なのでしょうか？経験しつつある他の全ての現れを、黙想(contemplation)において抱擁するためです。それだけです。それが唯一の目的です。彼らを抱擁し、愛を与えることができるようになるためであり、それ以外の何ものでもありません。そのために私達は個別性を獲得するのです。それが唯一の理由です。他の人を理解し、抱擁し、その痛みを軽減することができるようになることです。個別性を獲得、あるいは表現していない人が、誰かの痛みを理解したり、誰かが経験していることを理解し、助けることができると思いますか？答えはノーです。

page5

質問：この時点で私は、「自分はいまだ死んでおらず、これら全てを創造しているのではない」ということをいかにして知ることができるのだろうか、と自問しているのですが。

K：でも、あなたは死んでいるのです。通常の死以上にあなたは死んでいるのです。「死にたる者にその死にたる者を葬らせよ」（＊マタイ伝）と最愛のお方は言いました。そうなのです、私達は自分が死んでいると見なす人よりももっと死んでいるのです。無知にある全ての人間は死んでおり、特に今のこれらの次元の中で無知の状態にある人は死んでいるのです。なぜなら、これらの次元にいる間、私達は五感を通じて自分自身を表現しており、また素質的可能性のサイクルは蓋然的可能性のサイクルよりももっと制約されているからです。しかし他の次元においては、たとえ気づきのレベルは同じであっても、自分自身を表現する時には五つの超感覚を使うのです。そして、もしこのことに私達が気づくなら、素質的可能性のサイクルはそれまでと同じような制約を受けなくなります。それゆえ、私達は真理の探究者として気づきを高める努力をする必要があるのです。それだけです。

これが、私達が達成しようとすることを達成するための唯一の方法です。

質問：人が既に別の次元にいることを気づかせるために、その次元にいる不可視のヘルパー達は何を使うのか、その例がありますか？彼らはどのような論旨を使うのでしょうか？

K：いいですか、向こう側では現象、いわゆる現象はもはや現象ではなく、それはそれらの波動の法則によるリアリティーなのです。こちらの次元で現象と見なされることをあなたが行っても、向こうの波動ではそれは現象ではないのです；彼らの理解のレベル、および気づきのレベルの結果として彼らが制限を作りだしていることを、ヘルパー達は彼らに認識させるのです。彼らのために何かを創造し、それを認識するようにさせるのです。彼らが作りだしたものを脇にのけ、そこで自然(Nature)によって提供されたリアリティーを彼らに提供するのです。私の意味することがわかりますか？あなたは何かの現象を行うのではありません、それは向こうの次元では許されていません。そこではあなたは彼らの創造したものを脇にのけて、彼らが経験すべきそれらの波動の本当の世界を提供するのです。勿論、ただちにそれができるほど簡単ではありません。一時的には彼らはそれを見るかもしれませんが、しばらくすると彼らの理解に従って再びそれを変えてしまうのです。勿論、ヘルパー達は何回も、何回も試みなければなりません。なぜなら、ある瞬間にスタートして次の瞬間に終わるというようなプロセスではないからです。

いずれにせよ、真理の探究者の中には、たとえ僅かな時間でも別の次元での体験をする人々がいます。意識を保ちながら別の次元を体験し、自分たちが進化・成長への正しい道を歩んでいることを認識するのです。

　　勿論、粗雑な肉体に戻ると、あるレベルの気づきを示す不定形な体を再び帯びます。そのために、記憶の橋がないのです。確かに、それらの出来事の中で自分は何々を体験し、それは単なる夢ではなくリアリティーであったこと、意識を保ちながらそれらの出来事の中に入っていった、といういくらかの記憶は残っています。誰と一緒にいたか、その他の記憶が残っているでしょう。あなた方の中には自分が戦場や悲惨な現場、自然災害の現場などにいて、病院で人々を助けているのを記憶している人がいるかもしれません。

page6

質問：夢を思い出そうとするのは役立ちますか？

K：夢を思い出そうとすることは、お奨めしません。自然にまかせなさい。なぜなら、もしあなたが夢を思い出そうとすると、時にはあなたの気づきのフィルターを通した認識の結果であるエレメンタルを創造したり、あるいはそれにエネルギーを付与することがあるからです。その場合、それはあなたが参加した実際の出来事ではないからです。

質問：ヒーラーはどのような助けを提供するのですか？

K：ヒーラーが提供する助けは医者が提供する助けとは違います。ヒーラーは何を提供するのでしょうか？彼は愛を提供します。ヒーラーはヒーラー自身に属するものを提供するのではなく、主であられる神を提供するのです。それゆえ、主をもっともっと提供できるようになるために、気づきを高める努力が必要とされるのです。主はどこにいるのでしょうか？主から、どこか他から取ってきて、それを提供するのでしょうか？違います。主の愛を提供すると言う時、それは私達なのです。しかし、私達は主を現していません、私達が表現しようと試みるのは主なのです。なぜなら、主は光であり、その光はこの地上だけでなく、宇宙において、やって来る全ての人間を照らしだすのです。主は個人(an individual)ではありません。私達がロゴス、あるいはイエス・キリスト・ロゴスという時、それはあらゆる人の中に存在し、主はあらゆる人間なのです。主は多重性であり、主はあらゆる人なのです。私達が表現しようとするのはこれです。私達は主を表現しようとし、困っている同胞の人間に主を差し出そうとするのです。勿論、私達は非常に小さく、私達は無知の中にいますが、しかし私達はまた主の似姿でもあり、この似姿を表現しなければなりません。私達はアイコン（＊類似記号）を壊し、主の似姿を表現しなければならないのです。主が話した時、主は一人のパーソナリティーとして話したのではなく、私達すべてとして話したのです。

　　主は結果です。私達が「主は結果である」と言うとき、絶対愛である絶対存在の特徴の一つについて話しているのではなく、創造界の中にあるこれらの特質の現れについて話しているのです。私達がロゴスと言うとき、汎宇宙的ロゴスは全ての人間の中にあり、主が話した時、主は私達全員のために話されたのです。このポイントを理解するにはいくらかの思索、黙想が必要です。

　　主はさらに弟子に向かって、主が苦しんだり、飢えていたり、喉が渇いていたり、その他様々な状況に置かれていた時、彼らは主を助けなかった、と述べました。それに対して弟子たちが、主がそのような状況にあったのを見たことはなかった、と反論しました。それに対して主は、同胞である非常に多くの人間がそのような状況に置かれていたのを彼らは見ており、それらの人々は主である、と答えたのです。

　　絶対愛は全ての人々を同じように包み、人々の気づきのレベルによって区別することはありません。私達は他人を罵るべきではありません。なぜなら、それは主を罵ることだからです。不幸にも僧侶たちさえも他の人々を罵っています。なぜなら、彼等は彼らの宗教に属していないか、あるいは彼らの宗教に従って行動しないからです；これは神に対する冒涜と同じことです。このレッスン、および素質的可能性と蓋然的可能性のサイクルに関するレッスンは、非常に重要です。それらを非常に注意深く学び、それらの深い意味を感じ取るようにしてください。

私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

EREVNA/MAC20/KE2/3/FOLLOW UP OF M19/DOC/+EXERCISES

M20

エクササイズ：25“D”/パート１およびパート２

カテゴリー：２シリーズ“D”

パート１/20M

　　できるだけ快適に座ります。心を静めます…心を騒がせるようなもの全てを解き放ちます…アガピという言葉を繰り返します…体全体が純白であるのをイメージします…そして体の境界を感じます…両手、および全ての指の感覚エーテルに注意を向けます…両手は純白です…しかし今、両手に注意を向けている結果、体の他の部分よりも両手の方がもっと白く輝いています…あなたには白い両手があります。

　　両手に意識を集中しているので、白い両手の輝きはさらに増していきます…両手が熱くなっているのを感じます…あなたの両手で苦しんでいる人に触れることによって、その人の痛みを軽減でき…主の愛の道具となることを願います…あなたの両手があらゆる方向に白く輝いているのが見えます…それでは、あなたの前に誰か苦しんでいる人を連れてきます…そして、あなたの両手をその人の痛みがある部分に置きます…ブレーシス（＊神の意志）を使い、その人の痛みが軽減し、楽になることを願います…あなたはその人を愛する必要があります…今あなたは主の愛を与えているのですが、主の愛を与えるためには、あなた自身も愛の現れとなる必要があります…もう一度、あなたの両手が主の愛を与える道具となることを願います…同胞の全ての人間の健康を願います…終わります。

　　私達はいつも主、絶対、主の聖なるものに抱かれています。

パート２/20M

　　再び、心を静めます…身体全体が純白であるのをイメージします…身体の境界を感じます…深く、気持ち良く呼吸します…息を吸い込む時には、あなたの白い体がもっと白くなり、息を吐く時には、あなたの白い体の汚れが消えていくのが見えます…深く、気持ちよく呼吸します。

今やあなたはこれ以上白くなれないほど白くなっており、体全体がピリピリするのを感じています…そして、このピリピリする感じは体の全細胞を通じて行なわれる一種の呼吸であることがわかります…あなたは今、全身で呼吸しています…体全体でエーテル・バイタリティーを吸収しています…あなたの身体はあらゆる方向にその白い輝きを放っています…あなたはあらゆる方向に白い光を放射している太陽となっています…人々がいかなる波動を現わしていようと、同胞である全ての人間の健康を願います…健康を願います…最愛の方の祝福と愛があなたに、あなたの家庭に、あなたの愛する人々に、そして世界全体にあることを祈ります。

私達はいつも主、絶対、主の聖なるものに抱かれています。

EXERCISES WITH LESSONS:MAC/20.